

# 家畜衛生だより 令和2年1月号

紀北家畜保健衛生所

電話 073-462-0500

紀南家畜保健衛生所

電話 0739-47-0974

紀南家畜保健衛生所 東牟婁支所

電話 0735-58-1481

## 豚の飼養に関する基礎知識（繁殖豚）

養豚業を営むにあたり、健康な豚を育てることが大きなポイントとなり、経営に直接結びつきます。そこで、改めて豚の飼養管理（繁殖豚）について確認していきましょう。

### 1 繁殖豚の基本的生理値

- 体温 39.0℃
- 呼吸数 20～30回／分（18℃で休息時）
- 脈拍 70～80回／分（休息時）

### 2 管理上知っておくべき事項

#### ①適温

- 妊娠ストール 15～20℃
- 分娩舎 18～22℃
- 子豚は別に保温が必要 哺乳中 34℃ 離乳後 24℃

#### ②給水器からの水量

- ストール 1.5L／分以上
- 分娩舎 2.0L／分以上

※水はしっかり飲めるようにすることが大事です。

### 3 繁殖サイクル

母豚は、生後210日齢～240日齢で最初の種付けとなります。  
また、出産豚は、子豚の離乳後6日目で発情が回帰するのが目安です。

種付け後、114日～120日で出産

25日間の哺乳期間

離乳から6日後に発情回帰

約145日で1サイクル

すなわち、1年に24回転が理想の経営になります。

現在の主流は、5～6産で廃用、1年で30%～50%の更新が理想と考えられています。

○種付け後の再発日数による問題点

| 再発日数    | 主な原因              |
|---------|-------------------|
| 種付け後10日 | ホルモンのアンバランス、餌のカビ毒 |
| 21日     | 最初の発情で未受胎         |
|         | 種豚を使っている場合は、雄の問題  |
|         | 人工授精の場合は、技術的な問題   |
| 28日     | 着床時期に問題           |
| 42日     | 管理不十分             |
| 妊娠後期    | 流産、感染症の疑い         |

#### 4 授乳母豚の給与量の考え方

母豚は子豚1頭当たり約500gの飼料の摂取が必要となります



例) 哺乳子豚が10頭の場合の母豚への飼料給与量は？

$$\left[ \begin{array}{l} \frac{5\text{Kg}}{500\text{g}} \times \text{日の飼料摂取} + \text{母豚自身の維持エネルギー} \\ 500\text{g} \times 10 \text{頭} \qquad \qquad \qquad \text{初産豚：1.5Kg} \\ \qquad \qquad \qquad \qquad \qquad \qquad \text{経産豚：2.0Kg} \end{array} \right]$$



よって、授乳期には、最低7Kgの餌が必要ということになります。

※飼料給与回数を増やす(1日3回以上)ことで、授乳母豚の飼料摂取量を増加させることができます。この時期は、母豚にしっかり餌を食べさせるようにしましょう。

気になることや不明な点がありましたら、

所轄の家畜保健衛生所にお問い合わせください。